

～生活介護の利用者が働くために、当事業所が取り組んでいる3年目の報告～

○杉之尾 勝己（相模原市社会福祉事業団 障害者支援センター多機能型事業所 利用者）

うす”という項目を追加し、内容を対象者ごとに変え個人の表出に合わせた項目に変更した（図3）。また生活介護②の利用者は該当部に○をつけ、該当しない部分は職員が補助し記述することとした。生活介護②利用者から、自身の考察を反映しやすいと新たな書式に対し感想があった。

さいしょ	こえかけ	まえぞのさんのようす	かんそう	そのほか、気づいたこと （しょういん票に書く）
1 歌	「うまいですね」	「わらっていた」	「声を出していた」	よく知っている おもしろ
つか	「いいですね」	「がんばっていた」	「AさんBさんがくでやるきアップでいた」	
3 歌	「ありがとうございます」	「下を向いていた」		
	「気づかれませんでした」	「びんきなかった」		

図3 作業記録②

#### 4 リーダー職を担う利用者の気づき

生活介護②は、大きく分け4つの取り組みを中心に行っており、1つ目は受注作業、2つ目は他利用者のサポート、3つ目は来客者や外部へ自分たちの活動の紹介、4つ目は娯楽活動に取り組んでいる。その中で杉之尾は利用者リーダー職を担っており、他利用者のサポートの一環で、生活介護①の利用者が作業しやすいよう職員と共に考えてきた。しかしリーダー職とそれ以外の利用者とは、生活介護①のサポートに対する温度差があり、この取り組みに対し理解を得るにはどうしたらよいかリーダー職として課題を感じていた。

しかし今年度から始まった作業支援会議や作業記録などを通し、消極的だった生活介護②の利用者が、対象者がくると自身から周りに声をかけサポートを促したり、対象者の好きなアイドルCDやDVDを用意したり、作業支援会議や利用者懇談会で発言があったりと変化が生まれた。また対象者のことを知れて嬉しい、喜んだ笑顔が見られて嬉しいといった感想があり、取り組みの意義を少し感じてきた様子が見えがえた。

#### 5 生活介護①重症心身障害者の変化

対象者2名の内、1名は発語がなく口鳴りがあり、指差しや首の傾きなどでコミュニケーションをとる生活介護①利用者Aさんと、単語での発語はあるが乏しく、時折内容と気持ちに相違がある生活介護①利用者Bさんという2名を対象とした。両名共にCD・DVDを入れる箱を用意し、初めは1枚箱に入れ、追加の際は再度箱に職員が入れる事とした。Aさんは、作業への参加の意思を聞くと頷いたり、手をあげ参加の意思を示していた。開始当初は興味のあるCD・DVDを分解せず、分解をしても仕分箱に入れず自身で持っていた。取り組みを進めていく内に、分解した物を仕分け、追加の際は自身で箱を持って追加するよう要望するなど変化がみられた。家族からは、本人が仕事しお金をもらえるとは思っていなかった。この仕事は本人にとって

天職だと思うと感想があった。しかし作業期間中、体調の悪化で入院となり予定した期間の作業はできなかった。Bさんは、作業時楽しそうな反応が多いと記録に上がるが、楽しそうとはどのような反応か具体的に考察したところ、表情での反応が多く笑顔が楽しい反応のようだという考察に至った。また作業で関ることが多い、生活介護②担当利用者の時は、笑顔が多く楽しそうだという意見があり、関りの中で「いいですね」「ありがとうございます」などの声をかけていることが要因の一つではないかと意見があった。そのことからBさんは他者との関りは嫌いではなく、関りの中で賞賛の声などプラスの声をもとめているのではないかと考察があがった。しかし考察内容は実際の作業を通したものではなく、他の要因も考えられることから、今後は作業に対する反応か作業に対しどのように思っているか記録することとした。

今回記録対象ではなかった生活介護①の利用者にも変化があり、作業室に入ることを拒否していた利用者が、作業回数を重ねることで分解や仕分け作業を自身から取り組み始める様子が見えがえ、その様子から片付けが好きだと言う事前情報と繋がり、本人の作業する役割を明確にしていくことでより意欲的に繋がっていくのではないかとこの考察や、実際に作業を体験していくことが理解に繋がるという新たな気づきがあった。

#### 6 今後の課題

生活介護①重症心身障害者の作業に対する意思を明確にするにあたり、支援者が提案し伝える上で、実際に体験してもらうことが理解に繋がったこと、意志の表出は1人1人異なっていることなどの気づきがあった。今後は表出が実際の作業に対する反応かを深めていくことが、その先の意思決定に繋がるのではないかと考えた。

生活介護②中途障害者はこの取り組みを通し、他者をサポートするという役割にやりがいを感じ始めている様子が見えがえた。今後生活介護②の利用者がより主体的に関わることができるよう多機能型事業所して取り組みを進めていく。